

※本レジメン集は外来化学療法加算の算定を行っているレジメンのみを掲載。
※当加算を取れない治療法や削除となったレジメン等のため、登録記号・番号に欠番がある場合あり。

B胃がん1

削除

CDDP+CPT-11療法

B胃がん2

対象疾患	胃がん	レジメン名	Weekly PTX単剤療法		
1コースの期間(休薬期間含む)		28日			
総コース数	制限なし				
Rp.	薬剤名	1日投与量	投与方法	投与時間	投与日
1	生食100 mL(ルートキープ用)	1 P	点滴静注	ゆっくり	day 1、8、15
2	ジフェンヒドラミン10 mg	5 T	経口	/	day 1、8、15
3	生食100 mL	1 P	点滴静注		30分
	デキサメタゾン6.6 mg	1 V			
4	ファモチジン20 mg	1 A	静注	/	day 1、8、15
5	パクリタキセル(PTX)	80 mg/m ²	点滴静注		60分
	生食250 mL	1 P			
6	生食250 mL(フラッシュ用)	1 P	点滴静注	30分	day 1、8、15
血管外漏出 リスク分類	PTX:壊死性				
催吐性リスク分類	PTX:軽度				
インラインフィルター の要不要	PTX投与のため、0.22 μm以下のインラインフィルターを使用				
備考欄	※ジフェンヒドラミンは、PTX投与30分前に内服する。				

B胃がん3

対象疾患		胃がん		レジメン名		DTX単剤療法	
1コースの期間(休薬期間含む)				21日			
総コース数		制限なし					
Rp.	薬剤名		1日投与量	投与法	投与時間	投与日	
1	生食100 mL(ルートキープ用)		1 P	点滴静注	ゆっくり	day 1	
2	生食100 mL		1 P	点滴静注	30分	day 1	
	デキサメタゾン6.6 mg		1 V				
3	ドセタキセル(DTX)		60 mg/m ²	点滴静注	60分	day 1	
	生食250 mL		1 P				
4	生食50 mL(フラッシュ用)		1 P	点滴静注	全開	day 1	
血管外漏出 リスク分類		DTX:壊死性					
催吐性リスク分類		DTX:軽度					
インラインフィルター の要不要		不要					
備考欄							

B胃がん4
削除

S-1単剤療法

B胃がん5
削除

MTX+5-FU療法

B胃がん6

対象疾患	胃がん	レジメン名	S-1+CDDP療法 (SP療法) (S-1: 3週投与2週休薬法)		
1コースの期間 (休薬期間含む)		35日			
総コース数	制限なし (但しCDDPは6コースまで)				
Rp.	薬剤名	1日投与量	投与方法	投与時間	投与日
1	オランザピン5 mg	1 T	経口		day 8~11 (Max day 8~13)
2	テガフル・ギメラシル・オテラシルカリウム (S-1)	※備考欄参照	経口		day 1~21
3	生食100 mL (ルートキープ用)	1 P	点滴静注	ゆっくり	day 8
4	生食1000 mL	1 P	点滴静注	4時間	day 8
5	アプレピタント125mg (day8)、 80 mg (day9~10) ※ホスネツピタント未使用の場合	1 Cap	経口		day 8 (125 mg)、day 9~10 (80 mg)
6	生食100 mL	1 P	点滴静注	30分	day 8
	デキサメタゾン6.6 mg	1 V			
	デキサメタゾン1.65 mg	2 A			
	パロノセトロン0.75 mg	1 V			
	ホスネツピタント235 mg ※アプレピタント未使用の場合	1 V			
7	デキサメタゾン4 mg	2 T	経口		day 9~11
8	シスプラチン (CDDP)	60 mg/m ²	点滴静注	2時間	day 8
	生食500 mL	1 P			
9	20%マンニトール 300 mL	0.66 P	点滴静注	30分	day 8
10	フロセミド20mg	1 A	静注		day 8
11	生食1000 mL	1 P	点滴静注	6時間	day 8~10
	生食500 mL	1 P			
血管外漏出 リスク分類	CDDP: 炎症性				
催吐性リスク分類	レジメン全体: 高度 (S-1: 軽度 CDDP: 高度)				
インラインフィルター の要不要	不要				
備考欄	※オランザピンは、1日最大10 mgまで増量可能。day 8は抗がん剤投与前の投与であるが、day 9以降は日中の眠気軽減目的のため、眠前ではなく夕食後投与とされている。また、糖尿病患者には禁忌であり、糖尿病リスク因子を有する患者や75歳以上の高齢者に対する投与の安全性は確立されていないため、血糖上昇や傾眠などの有害事象に注意が必要である。 ※NK ₁ 受容体拮抗薬は、ホスネツピタント235 mg/dayをday 8またはアプレピタント125 mg/day (day 8、抗がん剤投与開始1時間~1時間30分前)、80 mg/day (day 9~10、午前中) のいずれかを投与する。 ※CDDP総投与量200~300 mg/m ² を超える場合は蓄積性の神経毒性注意 (最大6コース目まで)。 ※S-1投与量は以下の通りである (いずれも1日2回朝夕食後の分2投与)。 BSA 1.25 m ² 未満: 80 mg/day、BSA 1.25 m ² 以上1.5 m ² 未満: 100 mg/day、BSA 1.5 m ² 以上: 120 mg/day				

B胃がん7

対象疾患	胃がん	レジメン名	S-1+DTX療法		
1コースの期間(休薬期間含む)		21日			
総コース数	制限なし				
Rp.	薬剤名	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
1	テガフル・ギメラシル・オテラシルカリウム (S-1)	※備考欄参照	経口		day 1~14
2	生食100 mL (ルートキープ用)	1 P	点滴静注	ゆっくり	day 1
3	生食100 mL	1 P	点滴静注	30分	day 1
	デキサメタゾン6.6 mg	1 V			
4	ドセタキセル (DTX)	40 mg/m ²	点滴静注	60分	day 1
	生食250 mL	1 P			
5	生食50 mL (フラッシュ用)	1 P	点滴静注	全開	day 1
血管外漏出 リスク分類	DTX:壊死性				
催吐性リスク分類	レジメン全体:軽度 (S-1:軽度 DTX:軽度)				
インラインフィルター の要不要	不要				
備考欄	※S-1投与量は以下の通りである (いずれも1日2回朝夕食後の分2投与)。 BSA 1.25 m ² 未満:80 mg/day、BSA 1.25 m ² 以上1.5 m ² 未満:100 mg/day、BSA 1.5 m ² 以上:120 mg/day				

B胃がん8

削除 IRIS療法

B胃がん9

削除 CPT-11+MMC療法

B胃がん10

削除 UFT単剤療法(N-SAS-GC)

B胃がん11

削除 S-1単剤療法(ACTS-GC)

B胃がん12

削除 Low dose FP療法

B胃がん13

削除 5-FU+DXR+MMC療法 (FAM療法)

B胃がん14

削除 CPT-11+S-1療法 (IRIS療法) (S-1 2週まわし)

B胃がん15

削除 PTX+S-1療法 (S-1 2週まわし)

B胃がん16

対象疾患	胃がん	レジメン名	CAP+CDDP療法 (XP療法)		
1コースの期間 (休薬期間含む)	21日				
総コース数	制限なし (但しCDDPは6コースまで)				
Rp.	薬剤名	1日投与量	投与方法	投与時間	投与日
1	オランザピン5 mg	1 T	経口		day 1~4 (Max day 1~6)
2	カペシタビン (CAP)	※備考欄参照	経口		day 1~14
3	生食100 mL (ルートキープ用)	1 P	点滴静注	ゆっくり	day 1
4	生食1000 mL	1 P	点滴静注	4時間	day 1
5	アプレピタント125mg (day 1)、 80 mg (day 2~3) ※ホスネツピタント未使用の場合	1 Cap	経口		day 1 (125 mg)、day 2~3 (80 mg)
6	生食100 mL	1 P	点滴静注		30分
	デキサメタゾン6.6 mg	1 V			
	デキサメタゾン1.65 mg	2 A			
	パロノセトロン0.75 mg	1 V			
	ホスネツピタント235 mg ※アプレピタント未使用の場合	1 V			
7	デキサメタゾン4 mg	2 T	経口		day 2~4
8	シスプラチン (CDDP)	80 mg/m ²	点滴静注	2時間	day 1
	生食500 mL	1 P			
9	20%マンニトール 300 mL	0.66 P	点滴静注	30分	day 1
10	フロセミド20mg	1 A	静注		day 1
11	生食1000 mL	1 P	点滴静注	6時間	day 1~3
	生食500 mL	1 P			
血管外漏出 リスク分類	CDDP: 炎症性				
催吐性リスク分類	レジメン全体: 高度 (CAP: 軽度 CDDP: 高度)				
インラインフィルター の要不要	不要				
備考欄	※オランザピンは、1日最大10 mgまで増量可能。day 1は抗がん剤投与前の投与であるが、day 2以降は日中の眠気軽減目的のため、眠前ではなく夕食後投与とされている。また、糖尿病患者には禁忌であり、糖尿病リスク因子を有する患者や75歳以上の高齢者に対する投与の安全性は確立されていないため、血糖上昇や傾眠などの有害事象に注意が必要である。 ※NK ₁ 受容体拮抗薬は、ホスネツピタント235 mg/dayをday 1またはアプレピタント125 mg/day (day 1、抗がん剤投与開始1時間~1時間30分前)、80 mg/day (day 2~3、午前中) のいずれかを投与する。 ※CDDP総投与量200~300 mg/m ² を超える場合は蓄積性の神経毒性注意 (最大6コース目まで)。 ※CAP投与量は以下の通りである (いずれも1日2回朝夕食後の分2投与) (C法)。 BSA 1.36 m ² 未満: 2400 mg/day、BSA 1.36 m ² 以上1.66 m ² 未満: 3000 mg/day、 BSA 1.66 m ² 以上1.96 m ² 未満: 3600 mg/day、BSA 1.96 m ² 以上: 4200 mg/day				

B胃がん17

対象疾患	胃がん	レジメン名	Tri-weekly Tra+CAP+CDDP療法 (Tra+XP療法)		
1コースの期間 (休薬期間含む)	21日				
総コース数	制限なし (但しCDDPは6コースまで)				
Rp.	薬剤名	1日投与量	投与方法	投与時間	投与日
1	オランザピン5 mg	1 T	経口		day 1~4 (Max day 1~6)
2	カペシタピン (CAP)	※備考欄参照	経口		day 1~14
3	生食100 mL (ルートキープ用)	1 P	点滴静注	ゆっくり	day 1
4	生食1000 mL	1 P	点滴静注	4時間	day 1
5	アプレピタント125mg (day 1)、 80 mg (day 2~3) ※ホスネツピタント未使用の場合	1 Cap	経口		day 1 (125 mg)、day 2~3 (80 mg)
6	生食100 mL	1 P	点滴静注	30分	day 1
	デキサメタゾン6.6 mg	1 V			
	デキサメタゾン1.65 mg	2 A			
	パロノセトロン0.75 mg	1 V			
	ホスネツピタント235 mg ※アプレピタント未使用の場合	1 V			
7	デキサメタゾン4 mg	2 T	経口		day 2~4
8	トラスツズマブ (Tra)	初回8 mg/kg 2回目~ 6 mg/kg	点滴静注	90分 ※備考欄参照	day 1
	注射用水20 mL	※備考欄参照			
	生食250 mL	1 P			
9	シスプラチン (CDDP)	80 mg/m ²	点滴静注	2時間	day 1
	生食500 mL	1 P			
10	20%マンニトール 300 mL	0.66 P	点滴静注	30分	day 1
11	フロセミド20mg	1 A	静注		day 1
12	生食1000 mL	1 P	点滴静注	6時間	day 1~3
	生食500 mL	1 P			
血管外漏出 リスク分類	Tra: 非炎症性 CDDP: 炎症性				
催吐性リスク分類	レジメン全体: 高度 (CAP: 軽度 Tra: 最小度 CDDP: 高度)				
インラインフィルター の要不要	不要				
備考欄	※オランザピンは、1日最大10 mgまで増量可能。day 1は抗がん剤投与前の投与であるが、day 2以降は日中の眠気軽減目的のため、眠前ではなく夕食後投与とされている。また、糖尿病患者には禁忌であり、糖尿病リスク因子を有する患者や75歳以上の高齢者に対する投与の安全性は確立されていないため、血糖上昇や傾眠などの有害事象に注意が必要である。 ※NK ₁ 受容体拮抗薬は、ホスネツピタント235 mg/dayをday 1またはアプレピタント125 mg/day (day 1、抗がん剤投与開始1時間~1時間30分前)、80 mg/day (day 2~3、午前中) のいずれかを投与する。 ※Traの2回目以降は、初回時に忍容性が良好であれば投与時間を30分まで短縮可能である。 ※Traの溶解に用いる注射用水は、Tra 150 mgVは1V当たり7.2 mL、60 mgVは1V当たり3 mLであり、溶解後のTra濃度は21 mg/mLとなるようにされている。 ※CDDP総投与量200~300 mg/m ² を超える場合は蓄積性の神経毒性注意 (最大6コース目まで)。 ※CAP投与量は以下の通りである (いずれも1日2回朝夕食後の分2投与) (C法)。 BSA 1.36 m ² 未満: 2400 mg/day、BSA 1.36 m ² 以上1.66 m ² 未満: 3000 mg/day、 BSA 1.66 m ² 以上1.96 m ² 未満: 3600 mg/day、BSA 1.96 m ² 以上: 4200 mg/day				

B胃がん18

削除

S-1単剤隔日療法

B胃がん19

対象疾患		胃がん	レジメン名	CPT-11単剤療法		
1コースの期間(休薬期間含む)			49日			
総コース数		制限なし				
Rp.	薬剤名	1日投与量	投与法	投与時間	投与日	
1	生食100 mL(ルートキープ用)	1 P	点滴静注	ゆっくり	day 1、15、29	
2	生食100 mL	1 P	点滴静注	30分	day 1、15、29	
	デキサメタゾン6.6 mg	1 V				
	デキサメタゾン1.65 mg	2 A				
	パロノセトロン0.75 mg	1 V				
3	デキサメタゾン4 mg	2 T	経口		day 2~3 day 16~17 day 30~31	
4	イリノテカン(CPT-11)	150 mg/m ²	点滴静注	90分	day 1、15、29	
	生食250 mL	1 P				
5	生食50 mL(フラッシュ用)	1 P	点滴静注	全開	day 1、15、29	
血管外漏出 リスク分類		CPT-11:炎症性				
催吐性リスク分類		CPT-11:中等度				
インラインフィルター の要不要		不要				
備考欄						

B胃がん20

対象疾患		胃がん	レジメン名	Tri-weekly nab-PTX単剤療法		
1コースの期間(休薬期間含む)			21日			
総コース数		制限なし				
Rp.	薬剤名	1日投与量	投与方法	投与時間	投与日	
1	生食100 mL(ルートキープ用)	1 P	点滴静注	ゆっくり	day 1	
2	生食100 mL	1 P	点滴静注	30分	day 1	
	デキサメタゾン6.6 mg	1 V				
3	アルブミン懸濁型パクリタキセル (nab-PTX)	260 mg/m ²	点滴静注	30分	day 1	
	生食100 mL	1 P ※備考欄参照				
4	生食50 mL(フラッシュ用)	1 P	点滴静注	全開	day 1	
血管外漏出 リスク分類		nab-PTX:壊死性				
催吐性リスク分類		nab-PTX:軽度				
インラインフィルター の要不要		nab-PTX投与のため、インラインフィルターは使用禁止				
備考欄		※nab-PTXは生食にて20 mL/Vで溶解するが、生食の不要な残液は破棄する。				

B胃がん21

対象疾患	胃がん	レジメン名	S-1+CDDP療法 (SP療法) (S-1: 2週投与1週休薬法)		
1コースの期間 (休薬期間含む)	21日				
総コース数	制限なし (但しCDDPは6コースまで)				
Rp.	薬剤名	1日投与量	投与方法	投与時間	投与日
1	オランザピン5 mg	1 T	経口		day 1~4 (Max day 1~6)
2	テガフル・ギメラシル・オテラシルカリウム (S-1)	※備考欄参照	経口		day 1~14
3	生食100 mL (ルートキープ用)	1 P	点滴静注	ゆっくり	day 1
4	生食1000 mL	1 P	点滴静注	4時間	day 1
5	アプレピタント125mg (day 1)、 80 mg (day 2~3) ※ホスネツピタント未使用の場合	1 Cap	経口		day 1 (125 mg)、day 2~3 (80 mg)
6	生食100 mL	1 P	点滴静注	30分	day 1
	デキサメタゾン6.6 mg	1 V			
	デキサメタゾン1.65 mg	2 A			
	パロノセトロン0.75 mg	1 V			
	ホスネツピタント235 mg ※アプレピタント未使用の場合	1 V			
7	デキサメタゾン4 mg	2 T	経口		day 2~4
8	シスプラチン (CDDP)	60 mg/m ²	点滴静注	2時間	day 1
	生食500 mL	1 P			
9	20%マンニトール 300 mL	0.66 P	点滴静注	30分	day 1
10	フロセミド20mg	1 A	静注		day 1
11	生食1000 mL	1 P	点滴静注	6時間	day 1~3
	生食500 mL	1 P			
血管外漏出 リスク分類	CDDP: 炎症性				
催吐性リスク分類	レジメン全体: 高度 (S-1: 軽度 CDDP: 高度)				
インラインフィルターの 要不要	不要				
備考欄	※オランザピンは、1日最大10 mgまで増量可能。day 1は抗がん剤投与前の投与であるが、day 2以降は日中の眠気軽減目的のため、眠前ではなく夕食後投与とされている。また、糖尿病患者には禁忌であり、糖尿病リスク因子を有する患者や75歳以上の高齢者に対する投与の安全性は確立されていないため、血糖上昇や傾眠などの有害事象に注意が必要である。 ※NK ₁ 受容体拮抗薬は、ホスネツピタント235 mg/dayをday 1またはアプレピタント125 mg/day (day 1、抗がん剤投与開始1時間~1時間30分前)、80 mg/day (day 2~3、午前中) のいずれかを投与する。 ※CDDP総投与量200~300 mg/m ² を超える場合は蓄積性の神経毒性注意 (最大6コース目まで)。 ※S-1投与量は以下の通りである (いずれも1日2回朝夕食後の分2投与)。 BSA 1.25 m ² 未満: 80 mg/day、BSA 1.25 m ² 以上1.5 m ² 未満: 100 mg/day、BSA 1.5 m ² 以上: 120 mg/day				

B胃がん22

対象疾患	胃がん	レジメン名	Tri-weekly Tra+S-1+CDDP療法 (Tra+SP療法)		
1コースの期間 (休薬期間含む)	21日				
総コース数	制限なし (但しCDDPは6コースまで)				
Rp.	薬剤名	1日投与量	投与方法	投与時間	投与日
1	オランザピン5 mg	1 T	経口		day 1~4 (Max day 1~6)
2	テガフル・ギメラシル・オテラシルカリウム (S-1)	※備考欄参照	経口		day 1~14
3	生食100 mL (ルートキープ用)	1 P	点滴静注	ゆっくり	day 1
4	生食1000 mL	1 P	点滴静注	4時間	day 1
5	アプレピタント125mg (day 1)、 80 mg (day 2~3) ※ホスネツピタント未使用の場合	1 Cap	経口		day 1 (125 mg)、day 2~3 (80 mg)
6	生食100 mL	1 P	点滴静注	30分	day 1
	デキサメタゾン6.6 mg	1 V			
	デキサメタゾン1.65 mg	2 A			
	パロノセトロン0.75 mg	1 V			
	ホスネツピタント235 mg ※アプレピタント未使用の場合	1 V			
7	デキサメタゾン4 mg	2 T	経口		day 2~4
8	トラスツズマブ (Tra)	初回8 mg/kg 2回目~6 mg/kg	点滴静注	90分 ※備考欄参照	day 1
	注射用水20 mL	※備考欄参照			
	生食250 mL	1 P			
9	シスプラチン (CDDP)	60 mg/m ²	点滴静注	2時間	day 1
	生食500 mL	1 P			
10	20%マンニトール 300 mL	0.66 P	点滴静注	30分	day 1
11	フロセミド20mg	1 A	静注		day 1
12	生食1000 mL	1 P	点滴静注	6時間	day 1~3
	生食500 mL	1 P			
血管外漏出 リスク分類	Tra: 非炎症性 CDDP: 炎症性				
催吐性リスク分類	レジメン全体: 高度 (S-1: 軽度 Tra: 最小度 CDDP: 高度)				
インラインフィルター の要不要	不要				
備考欄	※オランザピンは、1日最大10 mgまで増量可能。day 1は抗がん剤投与前の投与であるが、day 2以降は日中の眠気軽減目的のため、眠前ではなく夕食後投与とされている。また、糖尿病患者には禁忌であり、糖尿病リスク因子を有する患者や75歳以上の高齢者に対する投与の安全性は確立されていないため、血糖上昇や傾眠などの有害事象に注意が必要である。 ※NK ₁ 受容体拮抗薬は、ホスネツピタント235 mg/dayをday 1またはアプレピタント125 mg/day (day 1、抗がん剤投与開始1時間~1時間30分前)、80 mg/day (day 2~3、午前中) のいずれかを投与する。 ※Traの2回目以降は、初回時に忍容性が良好であれば投与時間を30分まで短縮可能である。 ※Traの溶解に用いる注射用水は、Tra 150 mgVは1V当たり7.2 mL、60 mgVは1V当たり3 mLであり、溶解後のTra濃度は21 mg/mLとなるようにされている。 ※CDDP総投与量200~300 mg/m ² を超える場合は蓄積性の神経毒性注意 (最大6コース目まで)。 ※S-1投与量は以下の通りである (いずれも1日2回朝夕食後の分2投与)。 BSA 1.25 m ² 未満: 80 mg/day、BSA 1.25 m ² 以上1.5 m ² 未満: 100 mg/day、BSA 1.5 m ² 以上: 120 mg/day				

B胃がん23

対象疾患	胃がん	レジメン名	CAP+L-OHP療法 (CAPOX療法)		
1コースの期間(休薬期間含む)		21日			
総コース数	制限なし				
Rp.	薬剤名	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
1	カペシタビン (CAP)	※備考欄参照	経口		day 1~14
2	生食100 mL (ルートキープ用)	1 P	点滴静注	ゆっくり	day 1
3	生食100 mL	1 P	点滴静注	30分	day 1
	デキサメタゾン6.6 mg	1 V			
	パロノセトロン0.75 mg	1 V			
4	デキサメタゾン4 mg	2 T	経口		day 2~3
5	オキサリプラチン(L-OHP)	130 mg/m ²	点滴静注	2時間	day 1
	デキサメタゾン1.65 mg	2 A			
	5%ブドウ糖注射液250 mL	1 P			
6	生食50 mL (フラッシュ用)	1 P	点滴静注	全開	day 1
血管外漏出 リスク分類	L-OHP:壊死性				
催吐性リスク分類	レジメン全体:中等度 (CAP: 軽度 L-OHP: 中等度)				
インラインフィルター の要不要	不要				
備考欄	※デキサメタゾン点滴静注の内3.3 mgは、L-OHPによる静脈炎予防のためL-OHPと混注する。 ※L-OHP総投与量800 mg/m ² を超える場合は蓄積性の神経毒性注意。 ※CAP投与量は以下の通りである (いずれも1日2回朝夕食後の分2投与) (C法)。 BSA 1.36 m ² 未満:2400 mg/day、BSA 1.36 m ² 以上1.66 m ² 未満:3000 mg/day、 BSA 1.66 m ² 以上1.96 m ² 未満:3600 mg/day、BSA 1.96 m ² 以上:4200 mg/day				

B胃がん24

対象疾患	胃がん	レジメン名	Tri-weekly Tra+CAP+L-OHP療法 (Tra+CAPOX療法)		
1コースの期間 (休薬期間含む)		21日			
総コース数	制限なし				
Rp.	薬剤名	1日投与量	投与方法	投与時間	投与日
1	カペシタビン (CAP)	※備考欄参照	経口		day 1~14
2	生食100 mL (ルートキープ用)	1 P	点滴静注	ゆっくり	day 1
3	生食100 mL	1 P	点滴静注	30分	day 1
	デキサメタゾン6.6 mg	1 V			
	パロノセトロン0.75 mg	1 V			
4	デキサメタゾン4 mg	2 T	経口		day 2~3
5	トラスツズマブ (Tra)	初回8 mg/kg 2回目~6 mg/kg	点滴静注	90分 ※備考欄参照	day 1
	注射用水20 mL	※備考欄参照			
	生食250 mL	1 P			
6	オキサリプラチン (L-OHP)	130 mg/m ²	点滴静注	2時間	day 1
	デキサメタゾン1.65 mg	2 A			
	5%ブドウ糖注射液250 mL	1 P			
7	生食50 mL (フラッシュ用)	1 P	点滴静注	全開	day 1
血管外漏出 リスク分類		Tra: 非炎症性 L-OHP: 壊死性			
催吐性リスク分類		レジメン全体: 中等度 (CAP: 軽度 Tra: 最小度 L-OHP: 中等度)			
インラインフィルター の要不要		不要			
備考欄		※Traの2回目以降は、初回時に忍容性が良好であれば投与時間を30分まで短縮可能である。 ※Traの溶解に用いる注射用水は、Tra 150 mgVは1V当たり7.2 mL、60 mgVは1V当たり3 mLであり、溶解後のTra濃度は21 mg/mLとなるようにされている。 ※デキサメタゾン点滴静注の内3.3 mgは、L-OHPによる静脈炎予防のためL-OHPと混注する。 ※L-OHP総投与量800 mg/m ² を超える場合は蓄積性の神経毒性注意。 ※CAP投与量は以下の通りである (いずれも1日2回朝夕食後の分2投与) (C法)。 BSA 1.36 m ² 未満: 2400 mg/day、BSA 1.36 m ² 以上1.66 m ² 未満: 3000 mg/day、 BSA 1.66 m ² 以上1.96 m ² 未満: 3600 mg/day、BSA 1.96 m ² 以上: 4200 mg/day			

B胃がん25

対象疾患	胃がん	レジメン名	S-1+L-OHP療法 (G-SOX療法)		
1コースの期間 (休薬期間含む)		21日			
総コース数		制限なし			
Rp.	薬剤名	1日投与量	投与方法	投与時間	投与日
1	テガフル・ギメラシル・オテラシルカリウム (S-1)	※備考欄参照	経口		day 1~14
2	生食100 mL (ルートキープ用)	1 P	点滴静注	ゆっくり	day 1
3	生食100 mL	1 P	点滴静注	30分	day 1
	デキサメタゾン6.6 mg	1 V			
	パロノセトロン0.75 mg	1 V			
4	デキサメタゾン4 mg	2 T	経口		day 2~3
5	オキサリプラチン (L-OHP)	100 mg/m ²	点滴静注	2時間	day 1
	デキサメタゾン1.65 mg	2 A			
	5%ブドウ糖注射液250 mL	1 P			
6	生食50 mL (フラッシュ用)	1 P	点滴静注	全開	day 1
血管外漏出 リスク分類		L-OHP:壊死性			
催吐性リスク分類		レジメン全体:中等度 (S-1: 軽度 L-OHP: 中等度)			
インラインフィルター の要不要		不要			
備考欄		※デキサメタゾン点滴静注の内3.3 mgは、L-OHPによる静脈炎予防のためL-OHPと混注する。 ※L-OHP総投与量800 mg/m ² を超える場合は蓄積性の神経毒性注意。 ※S-1投与量は以下の通りである (いずれも1日2回朝夕食後の分2投与)。 BSA 1.25 m ² 未満:80 mg/day、BSA 1.25 m ² 以上1.5 m ² 未満:100 mg/day、BSA 1.5 m ² 以上:120 mg/day			

B胃がん26

対象疾患		胃がん	レジメン名	Ram単剤療法		
1コースの期間(休薬期間含む)			14日			
総コース数		制限なし				
Rp.	薬剤名		1日投与量	投与方法	投与時間	投与日
1	生食100 mL(ルートキープ用)		1 P	点滴静注	ゆっくり	day 1
2	ジフェンヒドラミン10 mg		5 T	経口		day 1
3	ラムシルマブ(Ram)		8 mg/kg	点滴静注	60分 ※備考欄参照	day 1
	生食250 mL		1 P ※備考欄参照			
4	生食50 mL(フラッシュ用)		1 P	点滴静注	全開	day 1
血管外漏出 リスク分類		Ram: 非炎症性				
催吐性リスク分類		Ram: 最小度				
インラインフィルター の要不要		Ram投与のため、0.2又は0.22 μmのインラインフィルターを使用				
備考欄		※Ramは、採取量と同量の生食を予め抜き取り、希釈時に本剤と生食の合計が全量250 mLとなるように希釈する。 ※ジフェンヒドラミンは、Ram投与前に内服する。 ※Ramの2回目以降は、初回時に忍容性が良好であれば投与時間を30分まで短縮可能である。				

B胃がん27

対象疾患	胃がん	レジメン名	Ram+weekly PTX療法		
1コースの期間(休薬期間含む)		28日			
総コース数	制限なし				
Rp.	薬剤名	1日投与量	投与方法	投与時間	投与日
1	生食100 mL(ルートキープ用)	1 P	点滴静注	ゆっくり	day 1、8、15
2	ジフェンヒドラミン10 mg	5 T	経口		day 1、8、15
3	生食100 mL	1 P	点滴静注	30分	day 1、8、15
	デキサメタゾン6.6 mg	1 V			
4	ラムシルマブ(Ram)	8 mg/kg	点滴静注	60分 ※備考欄参照	day 1、15
	生食250 mL	1 P ※備考欄参照			
5	生食50 mL(フラッシュ用)	1 P	点滴静注	全開	day 1、15
6	ファモチジン20 mg	1 A	静注		day 1、8、15
7	パクリタキセル(PTX)	80 mg/m ²	点滴静注	60分	day 1、8、15
	生食250 mL	1 P			
8	生食250 mL(フラッシュ用)	1 P	点滴静注	30分	day 1、8、15
血管外漏出 リスク分類	Ram: 非炎症性 PTX: 壊死性				
催吐性リスク分類	レジメン全体: 軽度(Ram: 最小度 PTX: 軽度)				
インラインフィルター の要不要	Ram及びPTX投与のため、0.22 μm以下のインラインフィルターを使用				
備考欄	※Ramは、採取量と同量の生食を予め抜き取り、希釈時に本剤と生食の合計が全量250 mLとなるように希釈する。 ※ジフェンヒドラミンは、Ram投与前に内服する。 ※Ramの2回目以降は、初回時に忍容性が良好であれば投与時間を30分まで短縮可能である。				

B胃がん28

削除

Tra+DTX療法

B胃がん29

対象疾患	胃がん	レジメン名	5-FU/l-LV療法		
1コースの期間(休薬期間含む)		56日			
総コース数	制限なし				
Rp.	薬剤名	1日投与量	投与方法	投与時間	投与日
1	生食100 mL(ルートキープ用)	1 P	点滴静注	ゆっくり	day 1、8、15、22、29、36
2	生食100 mL	1 P	点滴静注	30分	day 1、8、15、22、29、36
	デキサメタゾン6.6 mg	1 V			
3	レボホリナート(l-LV)	250 mg/m ²	点滴静注	2時間	day 1、8、15、22、29、36
	生食250 mL	1 P			
4	フルオロウラシル(5-FU)	600 mg/m ²	点滴静注	5分	day 1、8、15、22、29、36
	生食50 mL	1 P			
5	生食50 mL(フラッシュ用)	1 P	点滴静注	全開	day 1、8、15、22、29、36
血管外漏出 リスク分類	5-FU:炎症性				
催吐性リスク分類	5-FU: 軽度				
インラインフィルター の要不要	不要				
備考欄	※5-FUの投与は、l-LV開始1時間後に開始する。				

B胃がん30

対象疾患	胃がん	レジメン名	Tri-weekly Tra+weekly PTX療法		
1コースの期間(休薬期間含む)		84日			
総コース数	制限なし				
Rp.	薬剤名	1日投与量	投与方法	投与時間	投与日
1	生食100 mL(ルートキープ用)	1 P	点滴静注	ゆっくり	day 1、8、15、22、29、36、43、57、64、71
2	ジフェンヒドラミン10 mg	5 T	経口	30分	day 1、8、15、29、36、43、57、64、71
3	生食100 mL デキサメタゾン6.6 mg	1 P 1 V	点滴静注		day 1、8、15、29、36、43、57、64、71
4	トラスツズマブ(Tra)	初回8 mg/kg 2回目~6 mg/kg	点滴静注	90分 ※備考欄参照	day 1、22、43、64
	注射用水20 mL	※備考欄参照			
	生食250 mL	1 P			
5	生食50 mL(フラッシュ用)	1 P	点滴静注	全開	day 1、22、43、64
6	ファモチジン20 mg	1 A	静注	60分	day 1、8、15、29、36、43、57、64、71
7	パクリタキセル(PTX)	80 mg/m ²	点滴静注		day 1、8、15、29、36、43、57、64、71
	生食250 mL	1 P			
8	生食250 mL(フラッシュ用)	1 P	点滴静注	30分	day 1、8、15、29、36、43、57、64、71
血管外漏出 リスク分類	Tra: 非炎症性 PTX: 壊死性				
催吐性リスク分類	レジメン全体: 軽度 (Tra: 最小度 PTX: 軽度)				
インラインフィルター の要不要	PTX投与のため、day22以外は0.22 μm以下のインラインフィルターを使用				
備考欄	※本レジメンは、Tri-weekly Tra療法とweekly PTX療法を組み合わせたレジメンであり、投与日及び休薬日が非常に煩雑であり注意が必要である。下記参照のこと。 Tra :1 22 43 64 PTX:1 8 15 29 36 43 57 64 71 ※Traの2回目以降は、初回時に忍容性が良好であれば投与時間を30分まで短縮可能である。 ※Traの溶解に用いる注射用水は、Tra 150 mgVは1V当たり7.2 mL、60 mgVは1V当たり3 mLであり、溶解後のTra濃度は21 mg/mLとなるようにされている。 ※※ジフェンヒドラミンは、PTX投与30分前に内服する。 ※当院がん化学療法委員会より『HER2陽性例に対して、1st lineでTraによる治療歴のない場合の2nd lineで用いること』と提言されている。				

B胃がん31

対象疾患	胃がん	レジメン名	Tri-weekly Tra+5-FU+CDDP療法 (Tra+FP療法)		
1コースの期間 (休薬期間含む)	21日				
総コース数	制限なし (但しCDDPは6コースまで)				
Rp.	薬剤名	1日投与量	投与方法	投与時間	投与日
1	オランザピン5 mg	1 T	経口		day 1~4 (Max day 1~6)
2	生食100 mL (ルートキープ用)	1 P	点滴静注	ゆっくり	day 1~5
3	生食1000 mL	1 P	点滴静注	4時間	day 1
4	アプレピタント125 mg (day 1)、 80 mg (day 2~3) ※ホスネツピタント未使用の場合	1 Cap	経口		day 1 (125 mg)、day 2~3 (80 mg)
5	生食100 mL	1 P	点滴静注	30分	day 1~5
	デキサメタゾン6.6 mg	1 V			day 1
	デキサメタゾン1.65 mg	2 A			
	パロノセトロン0.75 mg	1 V			
	ホスネツピタント235 mg ※アプレピタント未使用の場合	1 V			
6	トラスツズマブ (Tra)	初回8 mg/kg 2回目~6 mg/kg ※備考欄参照	点滴静注	90分 ※備考欄参照	day 1
	注射用水20 mL				
	生食250 mL	1 P			
7	フルオロウラシル (5-FU)	800 mg/m ²	点滴静注	24時間	day 1~5
	生食500 mL	1 P			
8	シスプラチン (CDDP)	80 mg/m ²	点滴静注	2時間	day 1
	生食500 mL	1 P			
9	20%マンニトール 300 mL	0.66 P	点滴静注	30分	day 1
10	フロセミド20mg	1 A	静注		day 1
11	生食1000 mL	1 P	点滴静注	6時間	day 1~5
	生食500 mL	1 P			
血管外漏出 リスク分類	Tra: 非炎症性 5-FU: 炎症性 CDDP: 炎症性				
催吐性リスク分類	レジメン全体: 高度 (Tra: 最小度 5-FU: 軽度 CDDP: 高度)				
インラインフィルター の要不要	不要				
備考欄	※オランザピンは、1日最大10 mgまで増量可能。day 1は抗がん剤投与前の投与であるが、day 2以降は日中の眠気軽減目的のため、眠前ではなく夕食後投与とされている。また、糖尿病患者には禁忌であり、糖尿病リスク因子を有する患者や75歳以上の高齢者に対する投与の安全性は確立されていないため、血糖上昇や傾眠などの有害事象に注意が必要である。 ※NK ₁ 受容体拮抗薬は、ホスネツピタント235 mg/dayをday 1またはアプレピタント125 mg/day (day 1、抗がん剤投与開始1時間~1時間30分前)、80 mg/day (day 2~3、午前中)のいずれかを投与する。 ※Traの2回目以降は、初回時に忍容性が良好であれば投与時間を30分まで短縮可能である。 ※Traの溶解に用いる注射用水は、Tra 150 mgVは1V当たり7.2 mL、60 mgVは1V当たり3 mLであり、溶解後のTra濃度は21 mg/mLとなるようにされている。 ※CDDP総投与量200~300 mg/m ² を超える場合は蓄積性の神経毒性注意。				

B胃がん32

対象疾患		胃がん		レジメン名		Weekly nab-PTX単剤療法	
1コースの期間(休薬期間含む)				28日			
総コース数		制限なし					
Rp.	薬剤名		1日投与量	投与法	投与時間	投与日	
1	生食100 mL (ルートキープ用)		1 P	点滴静注	ゆっくり	day 1、8、15	
2	生食100 mL		1 P	点滴静注	30分	day 1、8、15	
	デキサメタゾン6.6 mg		1 V				
3	アルブミン懸濁型パクリタキセル (nab-PTX)		100 mg/m ²	点滴静注	30分	day 1、8、15	
	生食100 mL		1 P ※備考欄参照				
4	生食50 mL (フラッシュ用)		1 P	点滴静注	全開	day 1、8、15	
血管外漏出 リスク分類		nab-PTX:壊死性					
催吐性リスク分類		nab-PTX:軽度					
インラインフィルター の要不要		nab-PTX投与のため、インラインフィルターは使用禁止					
備考欄		※nab-PTXは生食にて20 mL/Vで溶解するが、生食の不要な残液は破棄する。					

B胃がん33

対象疾患	胃がん	レジメン名	Nivo単剤療法(2週間隔法)		
1コースの期間(休薬期間含む)		14日			
総コース数	制限なし				
Rp.	薬剤名	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
1	生食100 mL(ルートキープ用)	1 P	点滴静注	ゆっくり	day 1
2	ニボルマブ(Nivo)	240 mg/body	点滴静注	30分	day 1
	生食100 mL	1 P			
3	生食50 mL(フラッシュ用)	1 P	点滴静注	全開	day 1
血管外漏出 リスク分類	Nivo:非炎症性				
催吐性リスク分類	Nivo:最小度				
インラインフィルターの 要不要	Nivo投与のため、0.2又は0.22 μmインラインフィルターを使用				
備考欄					

B胃がん34

対象疾患		胃がん	レジメン名	Tri-weekly Tra+S-1+L-OHP療法 (Tra+G-SOX療法)		
1コースの期間 (休薬期間含む)			21日			
総コース数		制限なし				
Rp.	薬剤名		1日投与量	投与方法	投与時間	投与日
1	テガフル・ギメラシル・オテラシルカリウム (S-1)		※備考欄参照	経口		day 1~14
2	生食100 mL (ルートキープ用)		1 P	点滴静注	ゆっくり	day 1
3	生食100 mL		1 P	点滴静注	30分	day 1
	デキサメタゾン6.6 mg		1 V			
	パロノセトロン0.75 mg		1 V			
4	デキサメタゾン4 mg		2 T	経口		day 2~3
5	トラスツズマブ (Tra)		初回8 mg/kg	点滴静注	90分 ※備考欄参照	day 1
	注射用水20 mL		2回目~6 mg/kg			
	生食250 mL		※備考欄参照			
6	オキサリプラチン (L-OHP)		100 mg/m ²	点滴静注	2時間	day 1
	デキサメタゾン1.65 mg		2 A			
	5%ブドウ糖注射液250 mL		1 P			
7	生食50 mL (フラッシュ用)		1 P	点滴静注	全開	day 1
血管外漏出 リスク分類		Tra: 非炎症性 L-OHP: 壊死性				
催吐性リスク分類		レジメン全体: 中等度 (S-1: 軽度 Tra: 最小度 L-OHP: 中等度)				
インラインフィルター の要不要		不要				
備考欄		※デキサメタゾン点滴静注の内3.3 mgは、L-OHPによる静脈炎予防のためL-OHPと混注する。 ※Traの2回目以降は、初回時に忍容性が良好であれば投与時間を30分まで短縮可能である。 ※Traの溶解に用いる注射用水は、Tra 150 mgVは1V当たり7.2 mL、60 mgVは1V当たり3 mLであり、溶解後のTra濃度は21 mg/mLとなるようにされている。 ※L-OHP総投与量800 mg/m ² を超える場合は蓄積性の神経毒性注意。 ※S-1投与量は以下の通りである (いずれも1日2回朝夕食後の分2投与)。 BSA 1.25 m ² 未満: 80 mg/day、BSA 1.25 m ² 以上1.5 m ² 未満: 100 mg/day、BSA 1.5 m ² 以上: 120 mg/day				

B胃がん35

対象疾患		胃がん	レジメン名	Ram+weekly nab-PTX療法		
1コースの期間(休薬期間含む)			28日			
総コース数		制限なし				
Rp.	薬剤名	1日投与量	投与方法	投与時間	投与日	
1	生食100 mL(ルートキープ用)	1 P	点滴静注	ゆっくり	day 1、8、15	
2	ジフェンヒドรามミン10 mg	5 T	経口		day 1、15	
3	生食100 mL	1 P	点滴静注	30分	day 1、8、15	
	デキサメタゾン6.6 mg	1 V				
4	ラムシルマブ(Ram)	8 mg/kg	点滴静注	60分 ※備考欄参照	day 1、15	
	生食250 mL	1 P ※備考欄参照				
5	生食50 mL(フラッシュ用)	1 P	点滴静注	全開	day 1、15	
6	アルブミン懸濁型パクリタキセル (nab-PTX)	100 mg/m ²	点滴静注	30分	day 1、8、15	
	生食100 mL	1 P ※備考欄参照				
7	生食50 mL(フラッシュ用)	1 P	点滴静注	全開	day 1、8、15	
血管外漏出 リスク分類		Ram: 非炎症性 nab-PTX: 壊死性				
催吐性リスク分類		レジメン全体: 軽度 (Ram: 最小度 nab-PTX: 軽度)				
インラインフィルターの 要不要		Ram投与のため、Rp.3~5までは0.2又は0.22 μmのインラインフィルターを使用したルートからの投与 する(制吐剤はインラインフィルターありのルートから投与し、その後Ramを投与する)。nab-PTX投 与のため、Rp.1及び6~7はインラインフィルターを使用しないルートから投与する(インラインフィル ターなし側からルートキープを行い、このルートからnab-PTXを投与する)。				
備考欄		※Ramは、採取量と同量の生食を予め抜き取り、希釈時に本剤と生食の合計が全量250 mLとなる ように希釈する。 ※ジフェンヒドรามミンは、Ram投与前に内服する。 ※Ramの2回目以降は、初回時に忍容性が良好であれば投与時間を30分まで短縮可能である。 ※nab-PTXは生食にて20 mL/Vで溶解するが、生食の不要な残液は破棄する。				

B胃がん36

対象疾患		胃がん	レジメン名	l-LV+L-OHP+5-FU療法 (mFOLFOX6療法)		
1コースの期間 (休薬期間含む)			14日			
総コース数		制限なし				
Rp.	薬剤名	1日投与量	投与方法	投与時間	投与日	
1	生食100 mL (ルートキープ用)	1 P	点滴静注	ゆっくり	day 1	
2	生食100 mL	1 P	点滴静注	30分	day 1	
	デキサメタゾン6.6 mg	1 V				
	パロノセトロン0.75 mg	1 V				
3	デキサメタゾン4 mg	2 T	経口		day 2~3	
4	レボホリナート (l-LV)	200 mg/m ²	点滴静注	2時間	day 1	
	生食250 mL	1 P				
5	オキサリプラチン (L-OHP)	85 mg/m ²	点滴静注	2時間	day 1	
	デキサメタゾン1.65 mg	2 A				
	5%ブドウ糖注射液250 mL	1 P				
6	フルオロウラシル (5-FU)	400 mg/m ²	点滴静注	全開	day 1	
	生食50 mL	1 P				
7	フルオロウラシル (5-FU)	2400 mg/m ²	持続静注	46時間	day 1	
	生食250 mL	※備考欄参照				
8	生食50 mL (フラッシュ用)	1 P	点滴静注	全開	day 1	
血管外漏出 リスク分類	L-OHP: 壊死性 5-FU: 炎症性					
催吐性リスク分類	レジメン全体: 中等度 (L-OHP: 中等度 5-FU: 軽度)					
インラインフィルター の要不要	不要					
備考欄	※l-LVとL-OHPは、同時に投与開始する。 ※デキサメタゾン点滴静注の内3.3 mgは、L-OHPによる静脈炎予防のためL-OHPと混注する。 ※5-FUの持続静注分は、全量230 mLとなるように調製し、bolus投与後にインフューザーポンプを用いて投与開始し46時間かけて投与する。 ※L-OHP総投与量800 mg/m ² を超える場合は蓄積性の神経毒性注意。					

B胃がん37

削除

TAS-102単剤療法

B胃がん38

対象疾患	胃がん	レジメン名	Nivo単剤療法(4週間隔法)		
1コースの期間(休薬期間含む)		28日			
総コース数	制限なし				
Rp.	薬剤名	1日投与量	投与方法	投与時間	投与日
1	生食100 mL(ルートキープ用)	1 P	点滴静注	ゆっくり	day 1
2	ニボルマブ(Nivo)	480 mg/body	点滴静注	30分	day 1
	生食100 mL	1 P			
3	生食50 mL(フラッシュ用)	1 P	点滴静注	全開	day 1
血管外漏出 リスク分類	Nivo:非炎症性				
催吐性リスク分類	Nivo:最小度				
インラインフィルターの 要不要	Nivo投与のため、0.2又は0.22 μmインラインフィルターを使用				
備考欄					

B胃がん39

対象疾患	胃がん	レジメン名	Ram+CPT-11療法		
1コースの期間(休薬期間含む)		14日			
総コース数	制限なし				
Rp.	薬剤名	1日投与量	投与方法	投与時間	投与日
1	生食100 mL(ルートキープ用)	1 P	点滴静注	ゆっくり	day 1
2	ジフェンヒドラミン10 mg	5 T	経口		day 1
3	生食100 mL	1 P	点滴静注	30分	day 1
	デキサメタゾン6.6 mg	1 V			
	デキサメタゾン1.65 mg	2 A			
	パロノセトロン0.75 mg	1 V			
4	デキサメタゾン4 mg	2 T	経口		day 2~3
5	ラムシルマブ(Ram)	8 mg/kg	点滴静注	60分 ※備考欄参照	day 1
	生食250 mL	1 P ※備考欄参照			
6	生食50 mL(フラッシュ用)	1 P	点滴静注	全開	day 1
7	イリノテカン(CPT-11)	150 mg/m ²	点滴静注	90分	day 1
	生食250 mL	1 P			
8	生食50 mL(フラッシュ用)	1 P	点滴静注	全開	day 1
血管外漏出 リスク分類	Ram: 非炎症性 CPT-11: 炎症性				
催吐性リスク分類	レジメン全体: 中等度 (Ram: 最小度 CPT-11: 中等度)				
インラインフィルターの 要不要	Ram投与のため、0.22 μm以下のインラインフィルターを使用				
備考欄	※Ramは、採取量と同量の生食を予め抜き取り、希釈時に本剤と生食の合計が全量250 mLとなるように希釈する。 ※ジフェンヒドラミンは、Ram投与前に内服する。 ※Ramの2回目以降は、初回時に忍容性が良好であれば投与時間を30分まで短縮可能である。				

B胃がん40

対象疾患	胃がん	レジメン名	T-DXd単剤療法		
1コースの期間(休薬期間含む)		21日			
総コース数	制限なし				
Rp.	薬剤名	1日投与量	投与方法	投与時間	投与日
1	生食100 mL(ルートキープ用)	1 P	点滴静注	ゆっくり	day 1
2	5%ブドウ糖注射液100 mL	1 P	点滴静注	30分	day 1
	デキサメタゾン6.6 mg	1 V			
	デキサメタゾン1.65 mg	2 A			
	パロノセトロン0.75 mg	1 V			
3	デキサメタゾン4 mg	2 T	経口		day 2~3
4	トラスツズマブ デルクステカン (T-DXd)	6.4 mg/kg	点滴静注	90分 ※備考欄参照	day 1
	注射用水20 mL	※備考欄参照			
	5%ブドウ糖注射液100 mL	1 P			
5	5%ブドウ糖注射液100 mL	1 P	点滴静注	全開	day 1
血管外漏出 リスク分類	T-DXd:炎症性				
催吐性リスク分類	T-DXd:中等度 ※必要に応じてNK ₁ 受容体拮抗薬の追加を考慮すること。 さらに、オランザピンの併用も有用と考えられている(糖尿薬患者では禁忌)。 (NCCN等海外ガイドラインでは高度扱いのこともあり)。				
インラインフィルター の要不要	T-DXd投与のため、0.2 μmのインラインフィルターを使用				
備考欄	※T-DXdの2回目以降は、初回時に忍容性が良好であれば投与時間を30分まで短縮可能である。 ※T-DXdの溶解に用いる注射用水は、T-DXd 100 mgV 1V当たり5 mLであり、溶解後のT-DXd濃度は20 mg/mLとなる。 ※投与に際して、点滴バッグの遮光が必要である。 ※T-DXdの補液以外にも、制吐剤用の補液、フラッシュ用の輸液も5%ブドウ糖注射液を用いるため注意が必要である。				

B胃がん41

対象疾患	胃がん	レジメン名	Nivo+S-1+L-OHP療法 (Nivo+G-SOX療法)		
1コースの期間 (休薬期間含む)		21日			
総コース数		制限なし			
Rp.	薬剤名	1日投与量	投与方法	投与時間	投与日
1	テガフル・ギメラシル・オテラシルカリウム (S-1)	※備考欄参照	経口		day 1~14
2	生食100 mL (ルートキープ用)	1 P	点滴静注	ゆっくり	day 1
3	生食100 mL	1 P	点滴静注	30分	day 1
	デキサメタゾン6.6 mg	1 V			
	パロノセトロン0.75 mg	1 V			
4	デキサメタゾン4 mg	2 T	経口		day 2~3
5	生食50 mL (フラッシュ用)	1 P	点滴静注	全開	day 1
6	ニボルマブ (Nivo)	360 mg/body	点滴静注	30分	day 1
	生食100 mL	1 P			
7	生食50 mL (フラッシュ用)	1 P	点滴静注	全開	day 1
8	オキサリプラチン (L-OHP)	100 mg/m ²	点滴静注	2時間	day 1
	デキサメタゾン1.65 mg	2 A			
	5%ブドウ糖注射液250 mL	1 P			
9	生食50 mL (フラッシュ用)	1 P	点滴静注	全開	day 1
血管外漏出 リスク分類	Nivo:非炎症性 L-OHP:壊死性				
催吐性リスク分類	レジメン全体:中等度 (Nivo: 最小度 S-1: 軽度 L-OHP: 中等度)				
インラインフィルター の要不要	Nivo投与のため、0.2又は0.22 μmインラインフィルターを使用				
備考欄	※デキサメタゾン点滴静注の内3.3 mgは、L-OHPによる静脈炎予防のためL-OHPと混注する。 ※L-OHP総投与量800 mg/m ² を超える場合は蓄積性の神経毒性注意。 ※S-1投与量は以下の通りである (いずれも1日2回朝夕食後の分2投与)。 BSA 1.25 m ² 未満:80 mg/day、BSA 1.25 m ² 以上1.5 m ² 未満:100 mg/day、BSA 1.5 m ² 以上:120 mg/day				

B胃がん42

対象疾患	胃がん	レジメン名	Nivo+CAP+L-OHP療法 (Nivo+CAPOX療法)		
1コースの期間 (休薬期間含む)		21日			
総コース数	制限なし				
Rp.	薬剤名	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
1	カペシタビン (CAP)	※備考欄参照	経口		day 1~14
2	生食100 mL (ルートキープ用)	1 P	点滴静注	ゆっくり	day 1
3	生食100 mL	1 P	点滴静注	30分	day 1
	デキサメタゾン6.6 mg	1 V			
	パロノセトロン0.75 mg	1 V			
4	デキサメタゾン4 mg	2 T	経口		day 2~3
5	生食50 mL (フラッシュ用)	1 P	点滴静注	全開	day 1
6	ニボルマブ (Nivo)	360 mg/body	点滴静注	30分	day 1
	生食100 mL	1 P			
7	生食50 mL (フラッシュ用)	1 P	点滴静注	全開	day 1
8	オキサリプラチン (L-OHP)	130 mg/m ²	点滴静注	2時間	day 1
	デキサメタゾン1.65 mg	2 A			
	5%ブドウ糖注射液250 mL	1 P			
9	生食50 mL (フラッシュ用)	1 P	点滴静注	全開	day 1
血管外漏出 リスク分類	Nivo: 非炎症性 L-OHP: 壊死性				
催吐性リスク分類	レジメン全体: 中等度 (Nivo: 最小度 CAP: 軽度 L-OHP: 中等度)				
インラインフィルター の要不要	Nivo投与のため、0.2又は0.22 μmインラインフィルターを使用				
備考欄	※デキサメタゾン点滴静注の内3.3 mgは、L-OHPによる静脈炎予防のためL-OHPと混注する。 ※L-OHP総投与量800 mg/m ² を超える場合は蓄積性の神経毒性注意。 ※CAP投与量は以下の通りである (いずれも1日2回朝夕食後の分2投与) (C法)。 BSA 1.36 m ² 未満: 2400 mg/day、BSA 1.36 m ² 以上1.66 m ² 未満: 3000 mg/day、 BSA 1.66 m ² 以上1.96 m ² 未満: 3600 mg/day、BSA 1.96 m ² 以上: 4200 mg/day				

B胃がん43

対象疾患	胃がん	レジメン名	Nivo+l-LV+L-OHP+5-FU療法 (Nivo+mFOLFOX6療法)		
1コースの期間 (休薬期間含む)		14日			
総コース数	制限なし				
Rp.	薬剤名	1日投与量	投与方法	投与時間	投与日
1	生食100 mL (ルートキープ用)	1 P	点滴静注	ゆっくり	day 1
2	生食100 mL	1 P	点滴静注	30分	day 1
	デキサメタゾン6.6 mg	1 V			
	パロノセトロン0.75 mg	1 V			
3	デキサメタゾン4 mg	2 T	経口		day 2~3
4	生食50 mL (フラッシュ用)	1 P	点滴静注	全開	day 1
5	ニボルマブ (Nivo)	240 mg/body	点滴静注	30分	day 1
	生食100 mL	1 P			
6	生食50 mL (フラッシュ用)	1 P	点滴静注	全開	day 1
7	レボホリナート (l-LV)	200 mg/m ²	点滴静注	2時間	day 1
	生食250 mL	1 P			
8	オキサリプラチン (L-OHP)	85 mg/m ²	点滴静注	2時間	day 1
	デキサメタゾン1.65 mg	2 A			
	5%ブドウ糖注射液250 mL	1 P			
9	フルオロウラシル (5-FU)	400 mg/m ²	点滴静注	全開	day 1
	生食50 mL	1 P			
10	フルオロウラシル (5-FU)	2400 mg/m ²	持続静注	46時間	day 1
	生食250 mL	※備考欄参照			
11	生食50 mL (フラッシュ用)	1 P	点滴静注	全開	day 1
血管外漏出 リスク分類	Nivo: 非炎症性 L-OHP: 壊死性 5-FU: 炎症性				
催吐性リスク分類	レジメン全体: 中等度 (Nivo: 最小度 L-OHP: 中等度 5-FU: 軽度)				
インラインフィルター の要不要	Nivo投与のため、0.2又は0.22 μmインラインフィルターを使用				
備考欄	※l-LVとL-OHPは、同時に投与開始する。 ※デキサメタゾン点滴静注の内3.3 mgは、L-OHPによる静脈炎予防のためL-OHPと混注する。 ※5-FUの持続静注分は、全量230 mLとなるように調製し、bolus投与後にインフューザーポンプを用いて投与開始し46時間かけて投与する。 ※L-OHP総投与量800 mg/m ² を超える場合は蓄積性の神経毒性注意。				

B胃がん44

対象疾患	胃がん	レジメン名	Pembro+5-FU+CDDP療法 (Pembro+FP療法)		
1コースの期間(休薬期間含む)		21日			
総コース数	6コース				
Rp.	薬剤名	1日投与量	投与方法	投与時間	投与日
1	オランザピン5 mg	1 T	経口		day 1~4 (Max day 1~6)
2	生食100 mL (ルートキープ用)	1 P	点滴静注	ゆっくり	day 1~5
3	生食1000 mL	1 P	点滴静注	4時間	day 1
4	アプレピタント125 mg (day 1)、 80 mg (day 2~3) ※ホスネツピタント未使用の場合	1 Cap	経口		day 1 (125 mg)、day 2~3 (80 mg)
5	生食100 mL	1 P	点滴静注	30分	day 1~5
	デキサメタゾン6.6 mg	1 V			
	デキサメタゾン1.65 mg	2 A			day 1
	パロノセトロン0.75 mg	1 V			
	ホスネツピタント235 mg ※アプレピタント未使用の場合	1 V			
6	生食50 mL (フラッシュ用)	1 P	点滴静注	全開	day 1
7	ペムブロリズマブ (Pembro)	200 mg/body	点滴静注	30分	day 1
	生食100 mL	1 P			
8	生食50 mL (フラッシュ用)	1 P	点滴静注	全開	day 1
9	フルオロウラシル (5-FU)	800 mg/m ²	点滴静注	24時間	day 1~5
	生食500 mL	1 P			
10	シスプラチン (CDDP)	80 mg/m ²	点滴静注	2時間	day 1
	生食500 mL	1 P			
11	20%マンニトール 300 mL	0.66 P	点滴静注	30分	day 1
12	フロセミド20mg	1 A	静注		day 1
13	生食1000 mL	1 P	点滴静注	6時間	day 1~5
	生食500 mL	1 P			
血管外漏出 リスク分類	Pembro: 非炎症性 5-FU: 炎症性 CDDP: 炎症性				
催吐性リスク分類	レジメン全体: 高度 (Pembro: 最小度 5-FU: 軽度 CDDP: 高度)				
インラインフィルター の要不要	Pembro投与のため、0.2～5 μmインラインフィルターを使用				
備考欄	※オランザピンは、1日最大10 mgまで増量可能。day 1は抗がん剤投与前の投与であるが、day 2以降は日中の眠気軽減目的のため、眠前ではなく夕食後投与とされている。また、糖尿病患者には禁忌であり、糖尿病リスク因子を有する患者や75歳以上の高齢者に対する投与の安全性は確立されていないため、血糖上昇や傾眠などの有害事象に注意が必要である。 ※NK ₁ 受容体拮抗薬は、ホスネツピタント235 mg/dayをday 1またはアプレピタント125 mg/day (day 1、抗がん剤投与開始1時間～1時間30分前)、80 mg/day (day 2～3、午前中)のいずれかを投与する。 ※CDDP総投与量200～300 mg/m ² を超える場合は蓄積性の神経毒性注意。				

B胃がん45

対象疾患	胃がん	レジメン名	Pembro+S-1+CDDP療法 (Pembro+SP療法)		
1コースの期間 (休薬期間含む)	21日				
総コース数	6コース				
Rp.	薬剤名	1日投与量	投与方法	投与時間	投与日
1	オランザピン5 mg	1 T	経口		day 1~4 (Max day 1~6)
2	テガフル・ギメラシル・オテラシルカリウム (S-1)	※備考欄参照	経口		day 1~14
3	生食100 mL (ルートキープ用)	1 P	点滴静注	ゆっくり	day 1
4	生食1000 mL	1 P	点滴静注	4時間	day 1
5	アプレピタント125mg (day 1)、 80 mg (day 2~3) ※ホスネツピタント未使用の場合	1 Cap	経口		day 1 (125 mg)、day 2~3 (80 mg)
6	生食100 mL	1 P	点滴静注	30分	day 1
	デキサメタゾン6.6 mg	1 V			
	デキサメタゾン1.65 mg	2 A			
	パロノセトロン0.75 mg	1 V			
	ホスネツピタント235 mg ※アプレピタント未使用の場合	1 V			
7	デキサメタゾン4 mg	2 T	経口		day 2~4
8	生食50 mL (フラッシュ用)	1 P	点滴静注	全開	day 1
9	ペムブロリズマブ (Pembro)	200 mg/body	点滴静注	30分	day 1
	生食100 mL	1 P			
10	生食50 mL (フラッシュ用)	1 P	点滴静注	全開	day 1
11	シスプラチン (CDDP)	60 mg/m ²	点滴静注	2時間	day 1
	生食500 mL	1 P			
12	20%マンニトール 300 mL	0.66 P	点滴静注	30分	day 1
13	フロセミド20mg	1 A	静注		day 1
14	生食1000 mL	1 P	点滴静注	6時間	day 1~3
	生食500 mL	1 P			
血管外漏出 リスク分類	Pembro: 非炎症性 CDDP: 炎症性				
催吐性リスク分類	レジメン全体: 高度 (S-1: 軽度 Pembro: 最小度 CDDP: 高度)				
インラインフィルター の要不要	Pembro投与のため、0.2~5 μmインラインフィルターを使用				
備考欄	※オランザピンは、1日最大10 mgまで増量可能。day 1は抗がん剤投与前の投与であるが、day 2以降は日中の眠気軽減目的のため、眠前ではなく夕食後投与とされている。また、糖尿病患者には禁忌であり、糖尿病リスク因子を有する患者や75歳以上の高齢者に対する投与の安全性は確立されていないため、血糖上昇や傾眠などの有害事象に注意が必要である。 ※NK ₁ 受容体拮抗薬は、ホスネツピタント235 mg/dayをday 1またはアプレピタント125 mg/day (day 1、抗がん剤投与開始1時間~1時間30分前)、80 mg/day (day 2~3、午前中) のいずれかを投与する。 ※CDDP総投与量200~300 mg/m ² を超える場合は蓄積性の神経毒性注意 (最大6コース目まで)。 ※S-1投与量は以下の通りである (いずれも1日2回朝夕食後の分2投与)。 BSA 1.25 m ² 未満: 80 mg/day、BSA 1.25 m ² 以上1.5 m ² 未満: 100 mg/day、BSA 1.5 m ² 以上: 120 mg/day				

B胃がん46

対象疾患	胃がん	レジメン名	Pembro+CAP+CDDP療法（Pembro+XP療法）		
1コースの期間(休薬期間含む)	21日				
総コース数	6コース				
Rp.	薬剤名	1日投与量	投与方法	投与時間	投与日
1	オランザピン5 mg	1 T	経口		day 1~4 (Max day 1~6)
2	カペシタビン（CAP）	※備考欄参照	経口		day 1~14
3	生食100 mL（ルートキープ用）	1 P	点滴静注	ゆっくり	day 1
4	生食1000 mL	1 P	点滴静注	4時間	day 1
5	アプレピタント125mg(day 1)、 80 mg (day 2~3) ※ホスネツピタント未使用の場合	1 Cap	経口		day 1 (125 mg)、day 2~3 (80 mg)
6	生食100 mL	1 P	点滴静注	30分	day 1
	デキサメタゾン6.6 mg	1 V			
	デキサメタゾン1.65 mg	2 A			
	パロノセトロン0.75 mg	1 V			
	ホスネツピタント235 mg ※アプレピタント未使用の場合	1 V			
7	デキサメタゾン4 mg	2 T	経口		day 2~4
8	生食50 mL（フラッシュ用）	1 P	点滴静注	全開	day 1
9	ペムブロリズマブ（Pembro）	200 mg/body	点滴静注	30分	day 1
	生食100 mL	1 P			
10	生食50 mL（フラッシュ用）	1 P	点滴静注	全開	day 1
11	シスプラチン（CDDP）	80 mg/m ²	点滴静注	2時間	day 1
	生食500 mL	1 P			
12	20%マンニトール 300 mL	0.66 P	点滴静注	30分	day 1
13	フロセミド20mg	1 A	静注		day 1
14	生食1000 mL	1 P	点滴静注	6時間	day 1~3
	生食500 mL	1 P			
血管外漏出 リスク分類	Pembro: 非炎症性 CDDP: 炎症性				
催吐性リスク分類	レジメン全体: 高度 (CAP: 軽度 Pembro: 最小度 CDDP: 高度)				
インラインフィルター の要不要	Pembro投与のため、0.2～5 μmインラインフィルターを使用				
備考欄	※オランザピンは、1日最大10 mgまで増量可能。day 1は抗がん剤投与前の投与であるが、day 2以降は日中の眠気軽減目的のため、眠前ではなく夕食後投与とされている。また、糖尿病患者には禁忌であり、糖尿病リスク因子を有する患者や75歳以上の高齢者に対する投与の安全性は確立されていないため、血糖上昇や傾眠などの有害事象に注意が必要である。 ※NK ₁ 受容体拮抗薬は、ホスネツピタント235 mg/dayをday 1またはアプレピタント125 mg/day（day 1、抗がん剤投与開始1時間～1時間30分前）、80 mg/day（day 2～3、午前中）のいずれかを投与する。 ※CDDP総投与量200～300 mg/m ² を超える場合は蓄積性の神経毒性注意（最大6コース目まで）。 ※CAP投与量は以下の通りである（いずれも1日2回朝夕食後の分2投与）（C法）。 BSA 1.36 m ² 未満: 2400 mg/day、BSA 1.36 m ² 以上1.66 m ² 未満: 3000 mg/day、 BSA 1.66 m ² 以上1.96 m ² 未満: 3600 mg/day、BSA 1.96 m ² 以上: 4200 mg/day				

B胃がん47

対象疾患	胃がん	レジメン名	Pembro+S-1+L-OHP療法（Pembro+G-SOX療法）		
1コースの期間(休薬期間含む)		21日			
総コース数		6コース			
Rp.	薬剤名	1日投与量	投与方法	投与時間	投与日
1	テガフル・ギメラシル・オテラシルカリウム (S-1)	※備考欄参照	経口		day 1~14
2	生食100 mL(ルートキープ用)	1 P	点滴静注	ゆっくり	day 1
3	生食100 mL	1 P	点滴静注	30分	day 1
	デキサメタゾン6.6 mg	1 V			
	パロノセトロン0.75 mg	1 V			
4	デキサメタゾン4 mg	2 T	経口		day 2~3
5	生食50 mL(フラッシュ用)	1 P	点滴静注	全開	day 1
6	ペムブロリズマブ(Pembro)	200 mg/body	点滴静注	30分	day 1
	生食100 mL	1 P			
7	生食50 mL(フラッシュ用)	1 P	点滴静注	全開	day 1
8	オキサリプラチン(L-OHP)	100 mg/m ²	点滴静注	2時間	day 1
	デキサメタゾン1.65 mg	2 A			
	5%ブドウ糖注射液250 mL	1 P			
9	生食50 mL(フラッシュ用)	1 P	点滴静注	全開	day 1
血管外漏出 リスク分類	Pembro:非炎症性 L-OHP:壊死性				
催吐性リスク分類	レジメン全体:中等度(Pembro:最小度 S-1:軽度 L-OHP:中等度)				
インラインフィルター の要不要	Pembro投与のため、0.2～5 μmインラインフィルターを使用				
備考欄	※デキサメタゾン点滴静注の内3.3 mgは、L-OHPによる静脈炎予防のためL-OHPと混注する。 ※L-OHP総投与量800 mg/m ² を超える場合は蓄積性の神経毒性注意。 ※S-1投与量は以下の通りである(いずれも1日2回朝夕食後の分2投与)。 BSA 1.25 m ² 未満:80 mg/day、BSA 1.25 m ² 以上1.5 m ² 未満:100 mg/day、BSA 1.5 m ² 以上:120 mg/day				

B胃がん48

対象疾患	胃がん	レジメン名	Pembro+CAP+L-OHP療法（Pembro+CAPOX療法）		
1コースの期間(休薬期間含む)		21日			
総コース数	6コース				
Rp.	薬剤名	1日投与量	投与方法	投与時間	投与日
1	カペシタビン（CAP）	※備考欄参照	経口		day 1~14
2	生食100 mL（ルートキープ用）	1 P	点滴静注	ゆっくり	day 1
3	生食100 mL	1 P	点滴静注	30分	day 1
	デキサメタゾン6.6 mg	1 V			
	パロノセトロン0.75 mg	1 V			
4	デキサメタゾン4 mg	2 T	経口		day 2~3
5	生食50 mL（フラッシュ用）	1 P	点滴静注	全開	day 1
6	ペムブロリズマブ（Pembro）	200 mg/body	点滴静注	30分	day 1
	生食100 mL	1 P			
7	生食50 mL（フラッシュ用）	1 P	点滴静注	全開	day 1
8	オキサリプラチン（L-OHP）	130 mg/m ²	点滴静注	2時間	day 1
	デキサメタゾン1.65 mg	2 A			
	5%ブドウ糖注射液250 mL	1 P			
9	生食50 mL（フラッシュ用）	1 P	点滴静注	全開	day 1
血管外漏出 リスク分類	Pembro:非炎症性 L-OHP:壊死性				
催吐性リスク分類	レジメン全体: 中等度 (Pembro: 最小度 CAP: 軽度 L-OHP: 中等度)				
インラインフィルター の要不要	Pembro投与のため、0.2～5 μmインラインフィルターを使用				
備考欄	※デキサメタゾン点滴静注の内3.3 mgは、L-OHPによる静脈炎予防のためL-OHPと混注する。 ※L-OHP総投与量800 mg/m ² を超える場合は蓄積性の神経毒性注意。 ※CAP投与量は以下の通りである（いずれも1日2回朝夕食後の分2投与）（C法）。 BSA 1.36 m ² 未満:2400 mg/day、BSA 1.36 m ² 以上1.66 m ² 未満:3000 mg/day、 BSA 1.66 m ² 以上1.96 m ² 未満:3600 mg/day、BSA 1.96 m ² 以上:4200 mg/day				

B胃がん49

対象疾患	胃がん	レジメン名	Pembro+5-FUメンテナンス療法		
1コースの期間(休薬期間含む)		21日			
総コース数	制限なし				
Rp.	薬剤名	1日投与量	投与方法	投与時間	投与日
1	生食100 mL(ルートキープ用)	1 P	点滴静注	ゆっくり	day 1~5
2	生食100 mL	1 P	点滴静注	30分	day 1~5
	デキサメタゾン6.6 mg	1 V			
3	生食50 mL(フラッシュ用)	1 P	点滴静注	全開	day 1
4	ペムブロリズマブ(Pembro)	200 mg/body	点滴静注	30分	day 1
	生食100 mL	1 P			
5	生食50 mL(フラッシュ用)	1 P	点滴静注	全開	day 1
6	フルオロウラシル(5-FU)	800 mg/m ²	点滴静注	24時間	day 1~5
	生食500 mL	1 P			
7	生食50 mL(フラッシュ用)	1 P	点滴静注	全開	day 1~5
血管外漏出 リスク分類		Pembro: 非炎症性 5-FU: 炎症性			
催吐性リスク分類		レジメン全体:軽度(Pembro: 最小度 5-FU:軽度)			
インラインフィルター の要不要		Pembro投与のため、0.2~5 μmインラインフィルターを使用			
備考欄		※本レジメンは、B44 Pembro+FP療法後に用いるレジメンである。			

B胃がん50

対象疾患		胃がん		レジメン名		Pembro+S-1メンテナンス療法	
1コースの期間(休薬期間含む)				21日			
総コース数		制限なし					
Rp.	薬剤名		1日投与量	投与法	投与時間	投与日	
1	テガフル・ギメラシル・オテラシルカリウム (S-1)		※備考欄参照	経口		day 1~14	
2	生食100 mL (ルートキープ用)		1 P	点滴静注	ゆっくり	day 1	
6	ペムブロリズマブ (Pembro)		200 mg/body	点滴静注	30分	day 1	
	生食100 mL		1 P				
9	生食50 mL (フラッシュ用)		1 P	点滴静注	全開	day 1	
血管外漏出 リスク分類		Pembro: 非炎症性					
催吐性リスク分類		レジメン全体: 最小度 (Pembro: 最小度 S-1: 軽度) ※S-1は内服薬のためルーチンの制吐療法は最小度に準ずる					
インラインフィルター の要不要		Pembro投与のため、0.2～5 μmインラインフィルターを使用					
備考欄		※本レジメンは、B45 Pembro+SP療法、B47 Pembro+G-SOX療法後に用いるレジメンである。 ※S-1投与量は以下の通りである (いずれも1日2回朝夕食後の分2投与)。 BSA 1.25 m ² 未満: 80 mg/day、BSA 1.25 m ² 以上1.5 m ² 未満: 100 mg/day、BSA 1.5 m ² 以上: 120 mg/day					

B胃がん51

対象疾患		胃がん	レジメン名	Pembro+CAPメンテナンス療法		
1コースの期間(休薬期間含む)			21日			
総コース数		制限なし				
Rp.	薬剤名	1日投与量	投与方法	投与時間	投与日	
1	カペシタビン (CAP)	※備考欄参照	経口		day 1~14	
2	生食100 mL (ルートキープ用)	1 P	点滴静注	ゆっくり	day 1	
6	ペムブロリズマブ (Pembro)	200 mg/body	点滴静注	30分	day 1	
	生食100 mL	1 P				
9	生食50 mL (フラッシュ用)	1 P	点滴静注	全開	day 1	
血管外漏出 リスク分類		Pembro: 非炎症性				
催吐性リスク分類		レジメン全体: 最小度 (Pembro: 最小度 CAP: 軽度) ※CAPは内服薬のためルーチンの制吐療法は最小度に準ずる				
インラインフィルター の要不要		Pembro投与のため、0.2～5 μmインラインフィルターを使用				
備考欄		※本レジメンは、B46 Pembro+XP療法、B48 Pembro+CAPOX療法後に用いるレジメンである。 ※CAP投与量は以下の通りである (いずれも1日2回朝夕食後の分2投与) (C法)。 BSA 1.36 m ² 未満: 2400 mg/day、BSA 1.36 m ² 以上1.66 m ² 未満: 3000 mg/day、 BSA 1.66 m ² 以上1.96 m ² 未満: 3600 mg/day、BSA 1.96 m ² 以上: 4200 mg/day				

B胃がん52

対象疾患	胃がん	レジメン名	Zolbe+1-LV+L-OHP+5-FU療法 (Zolbe+mFOLFOX6療法)		
1コースの期間 (休薬期間含む)		14日			
総コース数	制限なし				
Rp.	薬剤名	1日投与量	投与方法	投与時間	投与日
1	オランザピン5 mg	1 T	経口		day1~4 (Max day 1~6) 又は day 0~4 (Max day 0~5)
2	ジフェンヒドラミン10 mg	5 T	経口		day 1
3	生食250 mL (ルートキープ用)	1 P	点滴静注	ゆっくり	day 1
4	アプレピタント125 mg (day 1)、 80 mg (day 2~3) ※ホスネツピタント未使用の場合	1 Cap	経口		day 1 (125 mg)、day 2~3 (80 mg)
5	生食100 mL	1 P	点滴静注	30分	day 1
	デキサメタゾン6.6 mg	1 V			
	パロノセトロン0.75 mg	1 V			
	ホスネツピタント235 mg ※アプレピタント未使用の場合	1 V			
6	デキサメタゾン4 mg	2 T	経口		day 2~4
7	ファモチジン20 mg	1 A	静注		day 1
8	生食50 mL (フラッシュ用)	1 P	点滴静注	全開	day 1
9	ゾルベツキシマブ (Zolbe)	初回800 mg/m ² 2回目~400 mg/m ²	点滴静注	※備考欄参照	day 1
	注射用水	※備考欄参照			
	生食	※備考欄参照			
10	生食50 mL (フラッシュ用)	1 P	点滴静注	※備考欄参照	day 1
11	レボホリナート (l-LV)	200 mg/m ²	点滴静注	2時間	day 1
	生食250 mL	1 P			
12	オキサリプラチン (L-OHP)	85 mg/m ²	点滴静注	2時間	day 1
	デキサメタゾン1.65 mg	2 A			
	5%ブドウ糖注射液250 mL	1 P			
13	フルオロウラシル (5-FU)	400 mg/m ²	点滴静注	全開	day 1
	生食50 mL	1 P			
14	フルオロウラシル (5-FU)	2400 mg/m ²	持続静注	46時間	day 1
	生食250 mL	※備考欄参照			
15	生食50 mL (フラッシュ用)	1 P	点滴静注	全開	day 1
血管外漏出 リスク分類	Zolbe:非炎症性 L-OHP:壊死性 5-FU:炎症性				
催吐性リスク分類	レジメン全体:高度 (Zolbe: 高度 L-OHP: 中等度 5-FU:軽度)				
インラインフィルター の要不要	Zolbe投与のため、0.2 μmインラインフィルターを使用 (添付文書にはないがインタビューフォームで推奨あり)				

備考欄	※ルートキープ用の生食は、投与時の悪心嘔吐の際の時間稼ぎでも使用するため、250 mLとなっているため注意が必要である。 ※オランザピンは、1日最大10 mgまで増量可能。day 1は抗がん剤投与前の投与であるが、day 2以降は日中の眠気軽減目的のため、眠前ではなく夕食後投与とされている。また、糖尿病患者には禁忌であり、糖尿病リスク因子を有する患者や75歳以上の高齢者に対する投与の安全性は確立されていないため、血糖上昇や傾眠などの有害事象に注意が必要である。また、当レジメンでは従来の使用法以外に、前日 (day 0) の夕食後からの5日間 (day 4まで) の投与も推奨されており、状況に応じて考慮すること。 ※NK₁受容体拮抗薬は、ホスネツピタント235 mg/dayをday 1またはアブレピタント125 mg/day (day 1、抗がん剤投与開始1時間~1時間30分前)、80 mg/day (day 2~3、午前中) のいずれかを投与する。 ※Zolbeは、100 mgVでは5 mL、300 mgVでは15 mLの注射用水で溶解し、溶解後の濃度は20 mg/mLとなる。また、補液の生食は、Zolbeの濃度が2~5 mg/mLとなるように調製することとされるが、当院では投与速度管理が煩雑とならないように10倍希釈 (2 mg/mL) することとする。 ※Zolbeの投与速度は、初回は100 mg/m²/hrから開始し30~60分後徐々に速度を上げ、200~400 mg/m²/hrまで上げることが出来る。2回目以降は、50 mg/m²/hrから開始し30~60分後徐々に速度を上げ、100~200 mg/m²/hrまで上げることが出来る。当院では、開始60分後から投与速度を上げられることとする。但し、投与開始後60分以内にGrade 2以上の悪心嘔吐があった場合は、Grade 1以下回復後半分の速度で15分間投与し、元の速度に戻す。また、Grade 4の嘔吐では投与中止すること。詳細は速度管理表を参照すること。 ※Zolbeの調製後の保存は室温で6時間まで、2~8°Cで24時間までとなっているので、悪心嘔吐による投与中断時には注意すること。 ※Zolbe投与後のフラッシュは、Zolbeの最終投与速度に合わせる (投与直後の点滴速度変化により悪心を惹起する可能性があるため (メーカーより))。 ※I-LVとL-OHPは、同時に投与開始する。 ※デキサメタゾン点滴静注の内3.3 mgは、L-OHPによる静脈炎予防のためL-OHPと混注する。 ※5-FUの持続静注分は、全量230 mLとなるように調製し、bolus投与後にインフューザーポンプを用いて投与開始し46時間かけて投与する。 ※L-OHP総投与量800 mg/m²を超える場合は蓄積性の神経毒性注意。
-----	---

B胃がん53

削除

Zolbe+l-LV+L-OHP+5-FU療法 (Zolbe+mFOLFOX6療法) (Zolbe 3週

B胃がん54

対象疾患	胃がん	レジメン名	Zolbe+CAP+L-OHP療法 (Zolbe+CAPOX療法)		
1コースの期間 (休薬期間含む)		21日			
総コース数		制限なし			
Rp.	薬剤名	1日投与量	投与方法	投与時間	投与日
1	カペシタビン (CAP)	※備考欄参照	経口		day 1~14
2	オランザピン5 mg	1 T	経口		day1~4 (Max day 1~6) 又は day 0~4 (Max day 0~5)
3	ジフェンヒドラミン10 mg	5 T	経口		day 1
4	生食250 mL (ルートキープ用)	1 P	点滴静注	ゆっくり	day 1
5	アプレピタント125 mg (day 1)、 80 mg (day 2~3) ※ホスネツピタント未使用の場合	1 Cap	経口		day 1 (125 mg)、day 2~3 (80 mg)
6	生食100 mL	1 P	点滴静注	30分	day 1
	デキサメタゾン6.6 mg	1 V			
	パロノセトロン0.75 mg	1 V			
	ホスネツピタント235 mg ※アプレピタント未使用の場合	1 V			
7	デキサメタゾン4 mg	2 T	経口		day 2~4
8	ファモチジン20 mg	1 A	静注		day 1
9	生食50 mL (フラッシュ用)	1 P	点滴静注	全開	day 1
10	ゾルベツキシマブ (Zolbe)	初回800 mg/m ² 2回目~600 mg/m ²	点滴静注	※備考欄参照	day 1
	注射用水	※備考欄参照			
	生食	※備考欄参照			
11	生食50 mL (フラッシュ用)	1 P	点滴静注	※備考欄参照	day 1
12	オキサリプラチン (L-OHP)	130 mg/m ²	点滴静注	2時間	day 1
	デキサメタゾン1.65 mg	2 A			
	5%ブドウ糖注射液250 mL	1 P			
13	生食50 mL (フラッシュ用)	1 P	点滴静注	全開	day 1
血管外漏出 リスク分類		Zolbe: 非炎症性 L-OHP: 壊死性			
催吐性リスク分類		レジメン全体: 高度 (Zolbe: 高度 L-OHP: 中等度 CAP: 軽度)			
インラインフィルターの要不要		Zolbe投与のため、0.2 μmインラインフィルターを使用 (添付文書にはないがインタビューフォームで推奨あり)			

備考欄	※ルートキープ用の生食は、投与時の悪心嘔吐の際の時間稼ぎでも使用するため、250 mLとなっているため注意が必要である。 ※オランザピンは、1日最大10 mgまで増量可能。day 1は抗がん剤投与前の投与であるが、day 2以降は日中の眠気軽減目的のため、眠前ではなく夕食後投与とされている。また、糖尿病患者には禁忌であり、糖尿病リスク因子を有する患者や75歳以上の高齢者に対する投与の安全性は確立されていないため、血糖上昇や傾眠などの有害事象に注意が必要である。また、当レジメンでは従来の使用法以外に、前日 (day 0) の夕食後からの5日間 (day 4まで) の投与も推奨されており、状況に応じて考慮すること。 ※NK₁受容体拮抗薬は、ホスネツピタント235 mg/dayをday 1またはアプレビタント125 mg/day (day 1、抗がん剤投与開始1時間~1時間30分前)、80 mg/day (day 2~3、午前中) のいずれかを投与する。 ※Zolbeは、100 mgVでは5 mL、300 mgVでは15 mLの注射用水で溶解し、溶解後の濃度は20 mg/mLとなる。また、補液の生食は、Zolbeの濃度が2~5 mg/mLとなるように調製することとされるが、当院では投与速度管理が煩雑とならないように10倍希釈 (2 mg/mL) することとする。 ※Zolbeの投与速度は、初回は100 mg/m²/hrから開始し30~60分後徐々に速度を上げ、200~400 mg/m²/hrまで上げることが出来る。2回目以降は、75 mg/m²/hrから開始し30~60分後徐々に速度を上げ、150~300 mg/m²/hrまで上げることが出来る。当院では、開始60分後から投与速度を上げられることとする。但し、投与開始後60分以内にGrade 2以上の悪心嘔吐があった場合は、Grade 1以下回復後半分の速度で15分間投与し、元の速度に戻す。また、Grade 4の嘔吐では投与中止すること。詳細は速度管理表を参照すること。 ※Zolbeの調製後の保存は室温で6時間まで、2~8℃で24時間までとなっているので、悪心嘔吐による投与中断時には注意すること。 ※Zolbe投与後のフラッシュは、Zolbeの最終投与速度に合わせることで(投与直後の点滴速度変化により悪心を惹起する可能性があるため(メーカーより))。 ※デキサメタゾン点滴静注の内3.3 mgは、L-OHPによる静脈炎予防のためL-OHPと混注する。 ※L-OHP総投与量800 mg/m²を超える場合は蓄積性の神経毒性注意。 ※CAP投与量は以下の通りである (いずれも1日2回朝夕食後の分2投与) (C法)。 BSA 1.36 m²未満:2400 mg/day、BSA 1.36 m²以上1.66 m²未満:3000 mg/day、 BSA 1.66 m²以上1.96 m²未満:3600 mg/day、BSA 1.96 m²以上:4200 mg/day
-----	---

B胃がん55

対象疾患	胃がん	レジメン名	Zolbe+l-LV+L-OHP+5-FU療法 (Zolbe+mFOLFOX6療法) (2日間版)		
1コースの期間 (休薬期間含む)		14日			
総コース数	制限なし				
Rp.	薬剤名	1日投与量	投与方法	投与時間	投与日
1	オランザピン5 mg	1 T	経口		day1~4 (Max day 1~6) 又は day 0~4 (Max day 0~5)
2	ジフェンヒドラミン10 mg	5 T	経口		day 1
3	生食250 mL (ルートキープ用)	1 P	点滴静注	ゆっくり	day 1
4	生食100 mL (ルートキープ用)	1 P	点滴静注	ゆっくり	day 2
5	アプレピタント125 mg (day 1)、 80 mg (day 2~3) ※ホスネツピタント未使用の場合	1 Cap	経口		day 1 (125 mg)、day 2~3 (80 mg)
6	生食100 mL	1 P	点滴静注	30分	day 1~2
	デキサメタゾン6.6 mg	1 V			day 1
	デキサメタゾン1.65 mg	2 A			
	パロノセトロン0.75 mg	1 V			
	ホスネツピタント235 mg ※アプレピタント未使用の場合	1 V			
7	デキサメタゾン4 mg	2 T	経口		day 3~4
8	ファモチジン20 mg	1 A	静注		day 1
9	生食50 mL (フラッシュ用)	1 P	点滴静注	全開	day 1
10	ゾルベツキシマブ (Zolbe)	初回800 mg/m ² 2回目~400 mg/m ²	点滴静注	※備考欄参照	day 1
	注射用水	※備考欄参照			
	生食	※備考欄参照			
11	生食50 mL (フラッシュ用)	1 P	点滴静注	※備考欄参照	day 1
12	レボホリナート (l-LV)	200 mg/m ²	点滴静注	2時間	day 2
	生食250 mL	1 P			
13	オキサリプラチン (L-OHP)	85 mg/m ²	点滴静注	2時間	day 2
	デキサメタゾン1.65 mg	2 A			
	5%ブドウ糖注射液250 mL	1 P			
14	フルオロウラシル (5-FU)	400 mg/m ²	点滴静注	全開	day 2
	生食50 mL	1 P			
15	フルオロウラシル (5-FU)	2400 mg/m ²	持続静注	46時間	day 2
	生食250 mL	※備考欄参照			
16	生食50 mL (フラッシュ用)	1 P	点滴静注	全開	day 2
血管外漏出 リスク分類	Zolbe: 非炎症性 L-OHP: 壊死性 5-FU: 炎症性				
催吐性リスク分類	レジメン全体: 高度 (Zolbe: 高度 L-OHP: 中等度 5-FU: 軽度)				
インラインフィルター の要不要	Zolbe投与のため、0.2 μmインラインフィルターを使用 (添付文書にはないがインタビューフォームで推奨あり)				

備考欄	※当レジメンは、Zolbeによる悪心嘔吐のため投与終了までの時間が掛かりすぎるのを考慮し、B52 Zolbe+mFOLFOX6療法を2日間に分けたレジメンである。 ※Day 1のルートキープ用の生食は、投与時の悪心嘔吐の際の時間稼ぎでも使用するため、250 mLとなっているため注意が必要である。 ※オランザピンは、1日最大10 mgまで増量可能。day 1は抗がん剤投与前の投与であるが、day 2以降は日中の眠気軽減目的のため、眠前ではなく夕食後投与とされている。また、糖尿病患者には禁忌であり、糖尿病リスク因子を有する患者や75歳以上の高齢者に対する投与の安全性は確立されていないため、血糖上昇や傾眠などの有害事象に注意が必要である。また、当レジメンでは従来の使用法以外に、前日 (day 0) の夕食後からの5日間 (day 4まで) の投与も推奨されており、状況に応じて考慮すること。 ※NK₁受容体拮抗薬は、ホスネツピタント235 mg/dayをday 1またはアプレピタント125 mg/day (day 1、抗がん剤投与開始1時間~1時間30分前)、80 mg/day (day 2~3、午前中) のいずれかを投与する。 ※Zolbeは、100 mgVでは5 mL、300 mgVでは15 mLの注射用水で溶解し、溶解後の濃度は20 mg/mLとなる。また、補液の生食は、Zolbeの濃度が2~5 mg/mLとなるように調製することとされるが、当院では投与速度管理が煩雑とならないように10倍希釈 (2 mg/mL) することとする。 ※Zolbeの投与速度は、初回は100 mg/m²/hrから開始し30~60分後徐々に速度を上げ、200~400 mg/m²/hrまで上げることが出来る。2回目以降は、50 mg/m²/hrから開始し30~60分後徐々に速度を上げ、100~200 mg/m²/hrまで上げることが出来る。当院では、開始60分後から投与速度を上げられることとする。但し、投与開始後60分以内にGrade 2以上の悪心嘔吐があった場合は、Grade 1以下回復後半分の速度で15分間投与し、元の速度に戻す。また、Grade 4の嘔吐では投与中止すること。詳細は速度管理表を参照すること。 ※Zolbeの調製後の保存は室温で6時間まで、2~8°Cで24時間までとなっているので、悪心嘔吐による投与中断時には注意すること。 ※Zolbe投与後のフラッシュは、Zolbeの最終投与速度に合わせることで(投与直後の点滴速度変化により悪心を惹起する可能性があるため(メーカーより))。 ※I-LVとL-OHPは、同時に投与開始する。 ※デキサメタゾン点滴静注の内3.3 mgは、L-OHPによる静脈炎予防のためL-OHPと混注する。 ※5-FUの持続静注分は、全量230 mLとなるように調製し、bolus投与後にインフューザーポンプを用いて投与開始し46時間かけて投与する。 ※L-OHP総投与量800 mg/m²を超える場合は蓄積性の神経毒性注意。
-----	---

B胃がん56

対象疾患	胃がん	レジメン名	Zolbe+CAP+L-OHP療法 (Zolbe+CAPOX療法) (2日間)		
1コースの期間(休薬期間含む)		21日			
総コース数	制限なし				
Rp.	薬剤名	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
1	カペシタビン (CAP)	※備考欄参照	経口		day 2~15
2	オランザピン5 mg	1 T	経口		day1~4 (Max day 1~6) 又は day 0~4 (Max day 0~5)
3	ジフェンヒドラミン10 mg	5 T	経口		day 1
4	生食250 mL (ルートキープ用)	1 P	点滴静注	ゆっくり	day 1
5	生食100 mL (ルートキープ用)	1 P	点滴静注	ゆっくり	day 2
6	アプレピタント125 mg (day 1)、 80 mg (day 2~3) ※ホスネツピタント未使用の場合	1 Cap	経口		day 1 (125 mg)、day 2~3 (80 mg)
7	生食100 mL	1 P	点滴静注	30分	day 1~2
	デキサメタゾン6.6 mg	1 V			day 1
	デキサメタゾン1.65 mg	2 A			
	パロノセトロン0.75 mg	1 V			
	ホスネツピタント235 mg ※アプレピタント未使用の場合	1 V			
8	デキサメタゾン4 mg	2 T	経口		day 3~4
9	ファモチジン20 mg	1 A	静注		day 1
10	生食50 mL (フラッシュ用)	1 P	点滴静注	全開	day 1
11	ゾルベツキシマブ (Zolbe)	初回800 mg/m ² 2回目~ 600 mg/m ²	点滴静注	※備考欄参照	day 1
	注射用水	※備考欄参照			
	生食	※備考欄参照			
12	生食50 mL (フラッシュ用)	1 P	点滴静注	※備考欄参照	day 1
13	オキサリプラチン (L-OHP)	130 mg/m ²	点滴静注	2時間	day 2
	デキサメタゾン1.65 mg	2 A			
	5%ブドウ糖注射液250 mL	1 P			
14	生食50 mL (フラッシュ用)	1 P	点滴静注	全開	day 2
血管外漏出 リスク分類	Zolbe: 非炎症性 L-OHP: 壊死性				
催吐性リスク分類	レジメン全体: 高度 (Zolbe: 高度 L-OHP: 中等度 CAP: 軽度)				
インラインフィルター の要不要	Zolbe投与のため、0.2 μmインラインフィルターを使用 (添付文書にはないがインタビューフォームで推奨あり)				

備考欄	※当レジメンは、Zolbeによる悪心嘔吐のため投与終了までの時間が掛かりすぎるのを考慮し、B54 Zolbe+CAPOX療法を2日間に分けたレジメンである。 ※Day 1のルートキープ用の生食は、投与時の悪心嘔吐の際の時間稼ぎでも使用するため、250 mLとなっているため注意が必要である。 ※オランザピンは、1日最大10 mgまで増量可能。day 1は抗がん剤投与前の投与であるが、day 2以降は日中の眠気軽減目的のため、眠前ではなく夕食後投与とされている。また、糖尿病患者には禁忌であり、糖尿病リスク因子を有する患者や75歳以上の高齢者に対する投与の安全性は確立されていないため、血糖上昇や傾眠などの有害事象に注意が必要である。また、当レジメンでは従来の使用法以外に、前日(day 0)の夕食後からの5日間(day 4まで)の投与も推奨されており、状況に応じて考慮すること。 ※NK₁受容体拮抗薬は、ホスネツピタント235 mg/dayをday 1またはアプレピタント125 mg/day (day 1、抗がん剤投与開始1時間~1時間30分前)、80 mg/day (day 2~3、午前中) のいずれかを投与する。 ※Zolbeは、100 mgVでは5 mL、300 mgVでは15 mLの注射用水で溶解し、溶解後の濃度は20 mg/mLとなる。また、補液の生食は、Zolbeの濃度が2~5 mg/mLとなるように調製することとされるが、当院では投与速度管理が煩雑とならないように10倍希釈(2 mg/mL) することとする。 ※Zolbeの投与速度は、初回は100 mg/m²/hrから開始し30~60分後徐々に速度を上げ、200~400 mg/m²/hrまで上げることが出来る。2回目以降は、75 mg/m²/hrから開始し30~60分後徐々に速度を上げ、150~300 mg/m²/hrまで上げることが出来る。当院では、開始60分後から投与速度を上げられることとする。但し、投与開始後60分以内にGrade 2以上の悪心嘔吐があった場合は、Grade 1以下回復後半分の速度で15分間投与し、元の速度に戻す。また、Grade 4の嘔吐では投与中止すること。詳細は速度管理表を参照すること。 ※Zolbeの調製後の保存は室温で6時間まで、2~8℃で24時間までとなっているので、悪心嘔吐による投与中断時には注意すること。 ※Zolbe投与後のフラッシュは、Zolbeの最終投与速度に合わせる(投与直後の点滴速度変化により悪心を惹起する可能性があるため(メーカーより))。 ※デキサメタゾン点滴静注の内3.3 mgは、L-OHPによる静脈炎予防のためL-OHPと混注する。 ※L-OHP総投与量800 mg/m²を超える場合は蓄積性の神経毒性注意。 ※CAP投与量は以下の通りである(いずれも1日2回朝夕食後の分2投与)(C法)。 BSA 1.36 m²未満:2400 mg/day、BSA 1.36 m²以上1.66 m²未満:3000 mg/day、 BSA 1.66 m²以上1.96 m²未満:3600 mg/day、BSA 1.96 m²以上:4200 mg/day
-----	---